

■幸田成友 歴史家。経済史家。「大阪市史」で地方史編纂を先駆した。

こうだしげとも

明治6年政変 1873= 東京の神山山本町で、もと江戸幕府の御坊主衆で、当時、大蔵省の官員だった幸田成延・猷の五男に生まれる。_北辺開発家郡司成忠・文豪幸田露伴・洋琴家幸田延の弟、提琴家安藤幸の兄。

明治14年政変 1881= 8歳：
新体詩抄・・ 1882= 9歳：

帝国憲法発布 1889= 16歳：

大津事件・・ 1891= 18歳：

日清戦争始・ 1894= 21歳：

白馬会・・・ 1896= 23歳：ロバート=マッケンジー著の訳「19世紀史」を刊行し、_帝国大学文科大学史学科を卒業後、大学院に進む。
_西洋史・東洋史・国史の基礎的研究につとめて、{史学雑誌}{史海}などに寄稿し、

_巨浪生の筆名を用いて、{今世少年}{少年世界}などにも寄稿。

ピアノ国産化・ 1900= 27歳：「歴山大王」({世界歴史譚}17),

田中正造直訴 1901= 28歳：「熊沢蕃山」({少年読本}35),

教科書疑獄・ 1902= 29歳：「東洋歴史」({帝国百科全書}85)を著わす。_大阪市史編纂のことが起きると、主任として赴任し、

_以来8年間、全力を傾注してことにあたり、

日露戦争終・ 1905= 32歳：

伊藤博文暗殺 1909= 36歳：

大逆事件判決 1911= 38歳：京都帝国大学文科大学講師を嘱託。*大阪市参事会編纂の名のもとに、「大阪市史」を世に送り始め、
明治天皇没・ 1912= 39歳：_帰京して慶応義塾大学講師に就任し、文学部において日本史その他を講じた。以来同大学に勤務、

21ヶ条要求・ 1915= 42歳：*本文5巻6冊、附図1帖、索引1冊よりなるに至った。わが国の市史中、模範的なものとして今日に至るまで重きをなしている。江戸時代に天下の台所といわれた大阪の市史編纂を手がけたことから日本経済史に関心を持つに至ったことは自然の成り行きであった。

本格政党内閣 1918= 45歳：_宮内省臨時帝室編修官となり、「明治天皇紀」の編纂に協力、

原敬首相暗殺 1921= 48歳：

水平社結成・ 1922= 49歳：この年まで続いた。招聘されて東京商科大学予科教授兼同大学助教授をも務め、日本近世史・西洋史・貨幣史・外国貿易史などを講じた。講義案は、毎年稿を新たにし、前日、夜更けるまで新資料を駆使して推敲を重ね、それを歯切れのよい口調による講義は学生を魅了。大阪から帰京後は、江戸の社会経済史の研究に向かい、
_日本近世経済史を追求するに従い、それに大なる影響を与えた日欧通交史に興味の中心が移り、

金融恐慌・・ 1927= 54歳：

共産党事件・ 1928= 55歳：_文部省在外研究員としてヨーロッパに赴くや、ヘーグに居を定めて同地の国立中央文書館をはじめ、各地の古文書館・図書館について根本史料を謄写し、古書店に稀覯書を漁り、帰国後、三越本店においてこれらの史料を展示した「日欧通交史料展覧会」は、その豊富なる点において学者を驚かせた。帝国図書館の旧幕府引継書を綿密に検討、江戸の市制、株仲間、札差、富後などの実証的研究を「日本経済史研究」に、

*「武家金融に関する研究」で慶応義塾大学から文学博士を授与された後、

海軍軍縮条約 1930= 57歳：「和蘭夜話」、

満州事変・・ 1931= 58歳：「和蘭夜話」、

帝人疑獄事件 1934= 61歳：「和蘭雑話」。_「江戸と大阪」に収めた。

二二六事件・ 1936= 63歳：

日中戦争始・ 1937= 64歳：慶応大学史学科の中心教授として、江戸時代史・外国貿易史・日本経済史などの講義を開き続け、

大政翼賛会・ 1940= 67歳：「史話東と西」、

日米開戦・・ 1941= 68歳：

・・・・・ 1942= 69歳：_慶応大学における講義案を纏めた「日欧通交史」は史学徒必読の名著とされる。

創価学会検挙 1943= 70歳：「大塩平八郎」(改訂増補)、

年金+総武装 1944= 71歳：*32年間勤めた慶応大学を退職して名誉教授となり、

敗戦・・・ 1945= 72歳：

極東裁判決・ 1948= 75歳：「史話南と北」「書誌学」、

独立回復・・ 1951= 78歳：

自衛隊発足・ 1954= 81歳：_没した。

刀水書房「20世紀の歴史家たち1」、 「没年日本史人物事典」、 平凡社百科事典、「なにわ人物譜」、